



つながる ひろがる あなたの 声

今回や過去の取材班の記事は特設サイト(QRコード)でご覧いただけます。LINEや郵送、ファクスで取材班とつながる方法も記載しています。記事へのご意見や身近な疑問、情報提供など私たちに皆さんの声を届けてください。



医療的ケア児のための新たな施設を岐阜県岐南町に開所します。「デジリハ」という設備を室内に設けます。デジリハを活用した取り組みにトライするところを含め、新施設を取材してもらえませんか? (医療法人「かがやき」総合プロデューサー平田節子さん)

3月にユースクで取材した医療的ケア児の記事を見て、新たな支援施設の担当者から投稿が寄せられました。その中にある「デジリハ」なる用語が気になって取材を始めると、増え続けるケア児を支えようと奮闘する施設の人たちの頑張りが見えてきました。=QRコードで動画



石井宏樹記者



# デジタル×リハビリでサポート

## 医療的ケア児に新施設 岐阜・岐南町

6月15日に岐阜県岐南町に開所したのは、医療的ケア児を預かる医療型短期入所施設「かがやきキャンプ」。施設から約8\*。圏内にある岐阜、愛知県の0~6歳のケア児を日中に最大5人まで受け入れる予定だ。

在宅医療を手掛ける医療法人「かがやき」が日本財団の助成を受け、運営する。保護者は、預けている間、日常の介護を任せることが可能だ。

子どもは医師や看護師ら専門家が連携する管理下で、食事や運動など成長に必要な生活動作を「練習」できる。研修も受け入れ、ケア児支援の人材育成の場にもしていく。

一番の特長は新たに導入した「デジリハ」と呼ばれる設備。「デジタル」と「リハビリ」をくっつけた造語で、NPO法人「アップドベ」(東京)が開発した。

プロジェクターに映した映像とさまざまなセンサーを組み合わせることで、子どもの体の動きと画面をリンク。ゲームで遊びながら自然にリハビリの動きができる仕組みとなっている。

アップドベの岡勇樹代表理事は「遊んでいるうちにリハビリが終わっている。そんな体験を目指している」と説明する。

### プールで負担軽く

キャンプでは、施設の入り口と温水プールに計3台のプロジェクターを用意。

医療的ケア児 人工呼吸器や胃ろうなどを使い、日常的にたんの吸引や経管栄養などの医療的なケアを必要とする子ども。医療の発達に伴って年々増加傾向にあり、現在は全国に2万人ほどいるとされ

## 壁に映像投影 触って遊んで運動

壁に映し出された巨大な映像の中のクジラや車に子どもが触ると音が出てそれらが動きだすなど、体の部位や動きに合わせて約30種類のゲームがそろろう。

水の浮力や抵抗を利用して、体幹の筋力が弱い医療的ケア児でもできるだけ自分の力で動けるように慣れよう。かがやきの市橋亮一理事長は「まだ導入が少ないデジリハと、プールを組み合わせたのも珍しく、世界初ではないか」と話す。

15日の開所式では、医療的ケア児の女児(2)がプールでデジリハを初体験。生まれて初めてのプールに入って手足をばたばた動かした。

腕にセンサーを着けた女児が腕を上下させると、「シャリン、シャリン」と音



不具合の原因を調べるアップドベの関係者



が鳴って、画面上でキラキラ輝く宝石が落ちてくる。初めは不思議そうだったが、腕と宝石の動きのつながりが分ると、何度も腕を動かした。

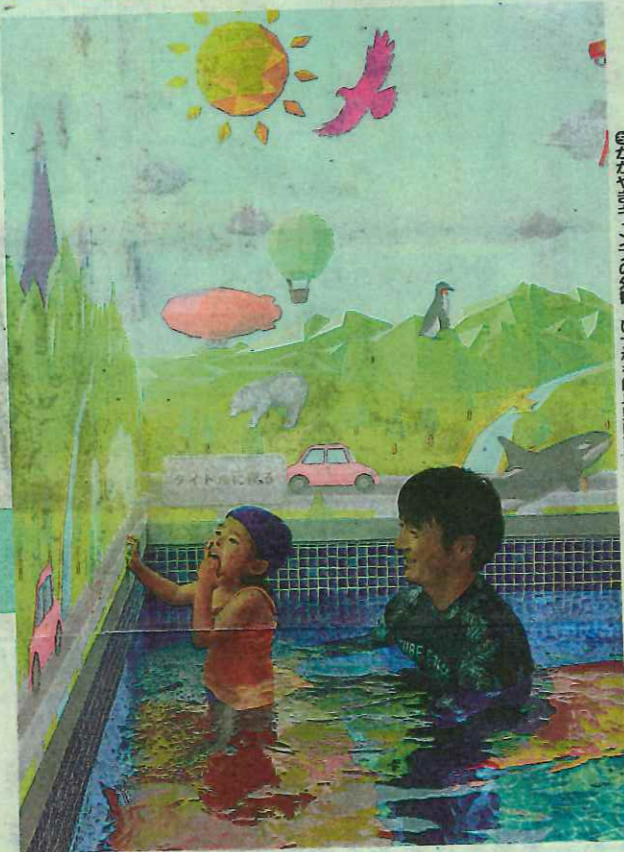
女児は陸上では数秒も立てないが、水中では軽く体に手を添えてもらった状態で数分間立つことができた。敷本保施設長は「陸上では重力でできない運動体験を楽しく学べていた。画面や音も分かりやすく、子どもの運動を引き出せるようアイデアを出していきたい」。

### 現場では試行錯誤

新しい取り組みだけにうまくいくことばかりではない。開所前日の準備作業に密着すると、プールのセンサーがなぜか反応しない。天井裏の配線まで調べても結局、理由は判明せず。当面は使える別のセンサーでしのぐという。

岡さんは「今はまだ安定とは程遠い。導入施設から意見をもらいながら改善を続けていかないといけない」と明かした。

医療的ケア児・家族支援法は6月に成立したばかり。教育現場や福祉施設の体制整備は進んでいない。「できないかもしれないけどやってみようという姿勢を子どもに見せたい」と敷本施設長。市橋理事長も「スタートは難しい。でも、先行事例として頑張っていけば、次の人たちに何かうまくいかなかったかを教えられる」と語る。



①プロジェクターの映像に触れて、プールで体を動かす利用者の女児。右は敷本保施設長  
②かがやきキャンプの外観(いずれも岐阜県岐南町)

## 親の会が法人化

医療的ケア児の親たちでつくるグループが、一般社団法人「医療的ケアPPS.lab」を15日に立ち上げる。企業や行政に協業を呼び掛け、ケア児を広く知ってもらおう。

法人を立ち上げるのは、医療的ケアが必要な2歳の娘を持つ名古屋瑞穂区の飯村紫帆さん(37)。飯村さんは娘の出産後、ブログなどを通じて全国の医療的ケア児の親たち約40人とつながり、行政の支援情報などを共有してきた。

親の会として企業などにケア児の周知などの協力をお願いした際に「法人からの依頼しか受け付けて

いない」と断られた経験があり、医療的ケアPPS.labの設立を決めた。行政の支援情報の提供や各種申請の代行を行うほか、食事や歯磨きなどのオンライン講習会を開催していく予定だ。

医療的ケア児・家族支援法も成立し、ケア児を社会全体で支えていく仕組みづくりが求められている。飯村さんは「医療的ケア児についてまずは興味を持ってもらい、ケア児を多くの人に身近に感じてもらいたい」と話している。問い合わせはメール=iimurashiho.pps.lab@gmail.com=まで。

### 企業などに協業呼び掛け



おめでとうございます

6月21日付ユースク「ふるさとイチオシ」で紹介した岩手県の三陸鉄道提供の「いかせんべい」プレゼント企画では、以下の皆さんが当選しました。▽どらきちゃん▽まるりんさん▽らちゅーさん▽じょーじさん▽ネギっぺさん▽びよさん▽チミママさん▽さとちゃんさん▽こっしーさん▽あゆちゃんさん

# ケア必要な子 かがやく居場所



医療型短期入所施設として開業した「かがやくきキャンプ」=いづれも岐南町薬師寺



デジタルアートを使ったリハビリ装置で遊ぶ子ども

## 医療型特定短期入所施設 岐南にオープン

重度の身体、知的障害や医療的ケアを必要とする就学前の子どもの預かる医療型特定短期入所施設「かがやくキャンプ」が、岐南町薬師寺にオープンした。アールの壁に映し出されたゲームで遊びながら体を動かす「デジタルリハビリテーション(デジタル)」などを探り入れながら、成長と社会参加を目指す。

地で12年間、在宅医療が対象。定員は5人。将来専門クリニックを運営するのはメテカルフリット医療法人「かがやく」(市ノエや宿泊を伴う医療型短期入所にも取り組むという。橋亮一理事長が日本財団の助成で開設。0〜6歳で、施設から約8キロ圏内にかがやくキャンプでは住む重症の心身障害児と、「食べる・寝る・遊ぶ」を「いつでも・どこでも・誰」もできることを目標とする「医療的ケア児」の支援を充実させる法案が成立し、秋にも施行される

## 親子の生活 充実めざす

る。厚生労働省によると、「医療的ケア児」は推計で、0〜6歳児が511人(約2.2%)、7〜17歳児が517人(3.9%)。生まれたときの病氣や障がいの影響で医療的ケアが必要な子どもは、必要医療費が欠かせず、登校時に保的ケアでは、「経管(経鼻、胃ろうを含む)が最も多い121人。「体位交代り、保育所などで預かってもらえなかったりする。成立した法律では、子どもや家族が住んでいる地域開が60人、「経口摂取」にかかわらず適切な支援をが53人などとなっている。受けられることを基本理念 同法人によると、「こまめに位置づけ、国や自治体になケアが必要なために親が支援の責務があると明記しつきつきの状態で過ごすた。保育所や学校などへの時間が多くなる。親は「短看護師の配置のほか、各都府県に相談や情報提供を「働くことをあきらめざるを得ない」、子どもは「家族」を求められる。このもとめられる。した在宅重度障害児者などとの問題を抱える。地域や実態調査では、在宅で生活社会との接点がなくなり、親子の自立を妨げることにつながる。一方、保育所や学校などの受け入れも進んでいないという。



フィットネスルーム

奥医療福祉連携推進課の森庸彦課長は「重度の障害者が住み慣れた地域で暮らすには医療的入所施設が必要だが、ニーズが高く、確保が難しい。キャンプの開所ですべて障害児の生活が充実することを願いたい」と話した。(松永佳博)

### デジタルリハビリ設備を導入

## 岐南にケア児施設開所



プロジェクターを用いたゲームを楽しみながら体を動かす利用者の女兒(左)=岐南町薬師寺で

日常生活に医療的なケアが必要な子ども(医療的ケア児)らを預かる施設「かがやきキャンプ」(岐南町薬師寺)が十五日、開所した。子どもが巨大画面に映ったゲームを楽しみながら、体を動かしてリハビリができる「デジタルリハビリ」(デジリハ)の新設備を導入するなど、先進的な施設で地域のケア児を見守る。

医療的ケア児はたんの吸引や経管栄養などが必要で、保育園や学校などの受け入れが進んでいない。預かれる福祉施設も少なく、二十四時間体制の看護が強いられる家族の負担が課題となっている。

施設は在宅診療を手掛ける医療法人「かがやき」が、日本財団の助成を受けて設立。施設から八ヶ圏内のケア児らを対象に、開所から段階的に受け入れを増やし、ゼロ歳から六歳までを平日に定員五人で預かる。二〇二二年度には宿泊も始める予定だ。

施設には玄関やプールにプロジェクターを置き、壁にゲームを映し出せるよう

にした。この日、利用者の女兒が画面に映った車や動物を触ると動きたずゲームを楽しみながら、積極的に体を動かしていた。

市橋亮一理事長は「親子それぞれの幸せを考えながら、子どもの自立を支える支援をしていきたい」と話した。(石井宏樹)

◇ 後日、ユースク特設面で詳細します。

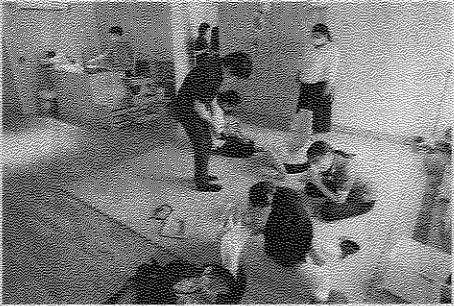
(第3種郵便物認可)

# 障害・ケア児 短期施設

## 岐南当面、日中のみ医療型入所

重症心身障害児と医療的ケア児の医療型短期入所施設「かがやきキャンプ」が、岐南町薬師寺に開設された。

同時に、運動機器を設置したメデイカルフィットネス、デジタルアートをしたりハビリができるプールも整備し、学齢期以降の肢体不自由児・医療的ケア児も利用できるようにした。隣接地で在宅医療専門クリニックを運営する医療法人かがやき(市橋亮一理事長)が、日本財団の助成を受け建設した。総事業費は



親子の自立を目指す「かがやきキャンプ」

2億5570万円。当面は日中のみ医療型短期入所でスタートし、今年度内にメデイカルフィットネス、来年度以降に宿泊を伴う短期入所の運営を目指している。

◇ 県は「医療的ケアを必要とする子どもの在宅看護マニュアル」を改訂し、県内の医療機関や訪問看護ステーションなどに配布する。県公式ホームページからも入手できる。